

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受理日	一般名	患者性別	年代	原疾患(箇所名)	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血※	同一供血者製剤確保※	同一供血者製剤使用※	感染症等転帰	転帰	供血者発病及の場合の供血者保管検体(抗原、抗体、NAT)査点)	供血者発病及の場合の供血者保管検体(抗原、抗体、NAT)査点)	
3-0810700713	A-08000713	2008/9/3	2008/9/16	人赤血球濃厚液(放射線照射) 人赤血球濃厚液-LR 人血血小板濃厚液(放射線照射)	女	60	血液腫瘍	B型肝炎	05/08-06/03 07/11-08/06 06/01-07/12	-	HBV-DNA(-) HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(-) HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(+) IgM-HBcAb(+) (08/08)	調査中	HBV/関連検査実施予定	保管検体34本についてHBV-NAT実施予定			4単位 12単位 160単位	24/34	調査中	調査中	非重篤	未回復				
3-0811100718	A-08000718	2008/9/8	2008/9/22	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR 人赤血球濃厚液-LR	男	70	血液腫瘍	B型肝炎	07/10 07/10	-	HBV-DNA(-) HBsAg(-) HBsAb(+) HBcAb(+) (07/10) HBV-DNA(+) (07/11) HBV-DNA(+) (07/12) HBV-DNA(+) (08/03) HBV-DNA(+) (08/05) HBV-DNA(+) HBsAg(-) HBsAb(+) HBcAb(-) HBcAb(+) (08/08)	-	-	保管検体2本全部HBV-DNA(-)		2単位 2単位	1/2(HBV関連検査陰性)	2本の原料血漿を製造。 2本の原料血漿をすべて使用済み。	原料血漿は全て使用済み。	非重篤	未回復					
輸血によるHCV感染報告例(疑い例を含む。)																										
供血者陽性事例																										
(該当例なし)																										
陽転事例																										
3-0807400408	A-08000408	2008/7/8	2008/7/18	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	男	30	外傷、整形外科的疾患	C型肝炎	08/03	HCV-RNA(-) HCV-Ab(-) (08/03)	HCV-RNA(+) HCV-Ab(+) (08/06)			陽性(輸血後)	保管検体5本全部HCV-RNA(-)		6単位	0/5	5本の原料血漿を製造。原料血漿はすべて確保済み。	-	重篤	未回復				
3-0807700412	A-08000412	2008/7/9	2008/7/22	人赤血球濃厚液(放射線照射)	男	70	血液疾患 消化器腫瘍	C型肝炎	07/01	HCV-Ab(-) (06/12)	HCV-RNA(+) HCV-Ab(+) (08/07)			陽性(輸血後)	保管検体2本全部HCV-RNA(-)		2単位	0/2	2本の原料血漿を製造。	原料血漿はすべて使用済み。	非重篤	未回復				

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受理日	一般名	患者性別	年代	原疾患(簡略名)	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	献血者再献血※	同一献血者製剤確保※	同一献血者製剤使用※	感染症等転帰	転帰	献血者発症及の場合約献血者保管検体(抗原、抗体、NAT)査値(採時点)	献血者発症及の場合約献血者の検査値
3-08079	A-080 004 14	2008/7/14	2008/7/23	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	女	90	外傷・整形外科疾患	C型肝炎	08/03	HCV-Abs(-) HCVコアAg(-) (08/03)	HCVコアAg(+) (08/07) HCV-RNA(+) HCV-Ak(-) (08/07)	HCV-RNA(-) HCV-Abs(-) (08/03)	HCV-RNA(+) HCV-Abs(+) (08/07)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体 2本全部 HCV-RNA(-)			4単位	1/2(HCV関連検査陰性)	2本の原料血漿を製造。原料血漿は全て確保済み。	-	非重篤	未回復		
3-08088	A-080 005 10	2008/7/28	2008/8/12	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	男	60	消化器腫瘍	C型肝炎	07/03	HCV-Abs(-) HCVコアAg(+) (07/02)	HCV-Abs(+) (08/07) HCV-RNA(+) HCVコアAg(+) (08/07)	HCV-RNA(-) HCV-Abs(-) (07/03)	HCV-RNA(+) HCV-Abs(+) (08/07)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体 2本全部 HCV-RNA(-)			4単位	0/2	1本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿-LRを製造。	原料血漿は使用済み。新鮮凍結血漿-LRは医療機関へ供給済み。	重篤	未回復		
3-08090	A-080 005 12	2008/7/30	2008/8/13	新鮮凍結人血漿-LR 新鮮凍結人血漿 人血小坂濃厚液(放射線照射) 人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	女	30	産科(出血)	C型肝炎	08/05 08/05 08/05	HCV-RNA(+) HCVコアAg(+) HCV-Ak(+) (08/07)	HCV-RNA(+) HCVコアAg(+) (08/07)	-	HCV-RNA(+) HCV-Abs(+) (08/07)	陽性(輸血後)	保管検体 32本全部 HCV-RNA(-)			15単位 15単位 60単位 34単位	12/32(HCV関連検査陰性)	10本の原料血漿、10本の新鮮凍結血漿-LR、9本の赤血球濃厚液-LRはすべて医療機関へ供給済み。新鮮凍結血漿-LRはすべて確保済み。	-	重篤	軽快		
3-08091	A-080 005 13	2008/7/30	2008/8/13	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	女	80	血液疾患	C型肝炎	08/03- 08/06	HCV-Abs(-) (08/02)	HCVコアAg(+) (08/07) HCV-RNA(+) (08/07)	HCV-RNA(-) (08/03)	HCV-RNA(+) HCV-Abs(+) (08/07)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体 3本全部 HCV-RNA(-)			6単位	0/3	3本の原料血漿を製造。原料血漿は全て確保済み。	-	重篤	未回復		
3-08093	A-080 005 15	2008/8/5	2008/8/18	人血小坂濃厚液(放射線照射) 人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	男	60	血液疾患	C型肝炎	07/11- 08/05 07/11- 08/05	HCVコアAg(+) (08/02) HCV-Abs(-) (07/11)	HCV-RNA(-) (08/02) HCVコアAg(+) (08/06) HCV-RNA(+) (08/06)	-	-	保管検体 45本全部 HCV-RNA(-)			465単位 18単位	34/45(HCV関連検査陰性)	42本の原料血漿、3本の新鮮凍結血漿-LRを製造。原料血漿は全て確保済み。新鮮凍結血漿-LRは2本確保済み。	原料血漿は13本使用済み。新鮮凍結血漿-LRは1本医療機関へ供給済み。	非重篤	未回復 *患者は原疾患のため(08/07)、永眠。剖検なし。輸血と死亡との関連なし(担当医の見解)			
3-08109	A-080 007 16	2008/9/3	2008/9/17	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	女	50	外傷・整形外科疾患	C型肝炎	08/06	HCV-Abs(-) (08/06)	HCV-Abs(+) (08/08) HCV-RNA(+) (08/08)	HCV-RNA(+) HCV-Abs(+) (08/08)	HCV-RNA(+) HCV-Abs(+) (08/08)	陽性(輸血後)	保管検体 1本(全部) HCV-RNA(-)			2単位	0/1	1本の原料血漿を製造。原料血漿は確保済み。	-	非重篤	未回復		
輸血後NATで陰性又は輸血前後で陽性																									

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受付日	一般名	患者性別	年代	原疾患(簡略名)	感染症名	感染年	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血※	同一供血者製剤確保※	同一供血者製剤使用※	感染症等転帰	転帰	供血者発病及の場合約の検査(抗原、抗体、NAT) (採与時点)	供血者発病及の場合約の検査(抗原、抗体、NAT) (採与時点)	
3-08114	A-080 08114 007 21	2008/9/16	2008/9/29	人血小坂濃厚液(放射線照射) 人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR 新鮮凍結人血漿	男	70	循環器疾患	C型肝炎	07/07 07/07 07/07	HCVコアAg(-) HCV-Ab(-) HCVコアAb(+) HCVコアAb(-) HCVコアAg(-) HCV-Ab(-) HCVコアAb(-)	HCV-RNA(-) HCV-Ab(+) HCVコアAb(+) HCVコアAb(-) HCVコアAg(-) HCV-Ab(-) HCVコアAg(-)	-	-	-	保管検体 11本全部 HCV-RNA(-)	保管検体 2本全部 HCV-RNA(-)	併用血液製剤等		45単位 10単位 6単位	5/11(HCV関連検査陰性)	11本の原料血漿、3本の赤血球MAPを製造。原料血漿は1本減損廃棄済み。	原料血漿は10本使用済み。赤血球MAPは全て医療機関へ供給済み。	非重篤	不明			
3-08100	A-080 08100 005 95	2008/8/21	2008/7/18	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	女	80	消化器疾患	C型肝炎	07/11	HCV-Ab(-) HCV-Ab(+)	HCV-RNA(+) HCV-RNA(+)	HCV-RNA(+)	HCV-RNA(+)	HCV-RNA(+)	保管検体 7本全部 HCV-RNA(-)	保管検体 2本全部 HCV-RNA(-)	併用血液製剤等		4単位	0/2	1本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿-LRを製造。	原料血漿は使用済み。新鮮凍結血漿-LRは医療機関へ供給済み。未使用であり回収。	非重篤	未回復			
陽転未確認事例																											
3-08072	A-080 08072 004 06	2008/7/4	2008/7/18	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	男	60	整形外科疾患	C型肝炎	07/07	-	HCV-Ab(-) HCV-Ab(-) HCV-RNA(+) HCV-Ab(+) HCV-Ab(+)	HCV-Ab(-) HCV-Ab(-) HCV-RNA(+) HCV-Ab(+) HCV-Ab(+)	-	-	保管検体 7本全部 HCV-RNA(-)	保管検体 7本全部 HCV-RNA(-)	併用血液製剤等		14単位	3/7(HCV関連検査陰性)	6本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿-LRを製造。	原料血漿は全て使用済み。新鮮凍結血漿-LRは医療機関へ供給済み。	重篤	未回復			
3-08119	A-080 08119	2008/9/22	2008/9/22	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	男	60	消化器腫瘍	C型肝炎	07/06	HCV-Ab(-)	HCV-Ab(+) HCV-Ab(+) HCV-RNA(-) HCV-Ab(+)	HCV-Ab(+) HCV-Ab(+) HCV-RNA(-) HCV-Ab(+)	調査中	調査中	HCV関連検査実施予定	保管検体 2本についでHCV-NAT実施予定	保管検体 2本についでHCV-NAT実施予定	併用血液製剤等		4単位	2/2(HCV関連検査陰性)	1本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿-LRは使用の有無を調査中。	新鮮凍結血漿-LRは医療機関へ供給済み。	非重篤	調査中		
輸血によるHIV感染報告例(疑い例を含む)																											
陽転事例																											
陽転事例																											
(該当例なし)																											
陽転事例																											

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受理日	一般名	患者性別	年代	原疾患(簡略名)	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血※	同一供血者製剤確保※	同一供血者製剤使用※	感染症等転帰	転帰	供血者発病及の供血者保管検体(抗原、抗体、NAT) (採与時点)	供血者発病及の供血者保管検体(抗原、抗体、NAT) (採与時点)		
3-0807100405	A-080	2008/7/4	2008/7/18	人赤血球濃厚液(照射)-LR	女	40	その他 の疾患 (表に 記載な し)	HIV V 07/02 感染	HIV-Ab(-) (07/02)	HIV-RNA(+) HIV-Ab(+) HIV-Ab WB(+) (08/06)	HIV-RNA(-) (07/02)	HIV-Ab(+) HIV-Ab WB法(+) HIV-2Ab WB法(判 定不能)	陰性(輸 血前) 陽性(輸 血後)	保管検体 3本全部 HIV- RNA(-)				4単位	1/3HIV関連 検査(陰性)	3本の原料血漿を 製造。	原料血漿 は全て使用 済み。	不明					
輸血後NATで陰性又は輸血前後で陽性																											
(該当例なし)																											
陽転未確認事例																											
(該当例なし)																											
輸血による細菌等感染報告例(疑い例を含む。)																											
3-0807100403	A-080	2008/7/2	2008/7/11	人小血球濃厚液(照射)	女	60	その他 の腫瘍	細菌 感染	-	患者検体なし (調査なし) 投与中止の 当該製剤(1 本)による細 菌培養試験 を実施、 Staphylococ cus aureusを 検出 同一採血番 号の血漿(1 本)で無菌試 験を実施した 結果、適合。 保管検体(1 本)で細菌培 養試験を實 施した結果、 Staphylococ cus aureusは 検出されず。	患者検体なし (調査なし) 投与中止の 当該製剤(1 本)による細 菌培養試験 を実施、 Staphylococ cus aureusを 検出 同一採血番 号の血漿(1 本)で無菌試 験を実施した 結果、適合。 保管検体(1 本)で細菌培 養試験を實 施した結果、 Staphylococ cus aureusは 検出されず。	-					10単位	-	1本の原料血漿を 製造。原料血漿 は確保済み。	-	重篤	軽快					

日赤番号	識別番号	報告受領日	FAX受付日	報告受領日	一般名	患者性別	患者年代	原疾患(簡略名)	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血※	同一供血者製剤使用※	感染症等転帰	転帰	供血者発潮及の場合約供血者尿管検体(抗原、NAT) (採与時点)	供血者発潮及の場合約供血者の検査値	
3-08076	A-08000411	2008/7/9	2008/7/22	2008/7/22	人血小坂濃厚液	女	60	血液腫瘍	細菌感染	08/07	-	発赤、膨疹、shivering BT 38.7°C 院内にて患者血培養実施、陰性。	非溶血性副作用関連検査実施。 抗血漿タンパク質抗体検査：陰性 血漿タンパク量：低下 衣原体：陰性 当該製剤(1本)による細菌培養試験を実施、陰性。	日赤投与前検査	日赤投与後検査	-	-	併用血液製剤等	被疑薬：採血3日目 の濃厚血小板(1本)	10単位	-	-	重篤	回復			
3-08082	A-08000432	2008/7/16	2008/7/28	2008/7/28	人血小坂濃厚液(放射線照射)-LR	女	80	消化器腫瘍	細菌感染	08/06	-	術中術後輸血施行。 翌日、敗血症発症。 翌々日、敗血症性ショックにより死亡。	患者検体なし(調査なし) 投与中止の当該製剤(1本)による細菌培養試験を実施、陰性。	患者検体なし(調査なし) 投与中止の当該製剤(1本)による細菌培養試験を実施、陰性。	日赤投与前検査	日赤投与後検査	-	-	併用血液製剤等	被疑薬：採血14日目 の照射赤血球濃厚液-LR(1本) 調査結果を受けて担当医より副作用用、感染症と輸血血液との因果関係は不明である。」とのコメントが得られた。	2単位	-	-	非重篤	回復		
3-08083	A-08000433	2008/7/16	2008/7/28	2008/7/28	新鮮凍結人血球-LR 人血小坂濃厚液(放射線照射)-LR 人血小坂濃厚液(放射線照射)	女	70	循環器疾患	細菌感染	08/07 08/07	術中術後輸血施行。 翌日、敗血症発症。 翌々日、敗血症性ショックにより死亡。 患者血液培養より Aeromonas hydrophilaを同定。	患者検体なし(調査なし) 当該製剤のセグメント チューブ(6本)でAeromonas hydrophilaに 対する細菌培養試験を実施。 Aeromonas hydrophilaは 検出されず。	患者検体なし(調査なし) 採血14、15日目の照射赤血球濃厚液-LR(2本) 採血3日目の照射濃厚血小板(1本)調査結果を受けて担当医より副作用用、感染症と輸血血液との因果関係なしと考える。」とのコメントが得られた。	患者検体なし(調査なし) 採血14、15日目の照射赤血球濃厚液-LR(2本) 採血3日目の照射濃厚血小板(1本)調査結果を受けて担当医より副作用用、感染症と輸血血液との因果関係なしと考える。」とのコメントが得られた。	日赤投与前検査	日赤投与後検査	-	-	併用血液製剤等	被疑薬：採血289日、295日、316日目の新鮮凍結血漿-LR(3本) 採血14、15日目の照射赤血球濃厚液-LR(2本) 採血3日目の照射濃厚血小板(1本)調査結果を受けて担当医より副作用用、感染症と輸血血液との因果関係なしと考える。」とのコメントが得られた。	6単位 4単位 20単位	-	-	重篤	死亡(敗血症性ショックにて死亡、剖検なし。) *死亡の本剤との関連性なし(担当医の見解)		

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受理日	一般名	患者性別	年代	原疾患(箇所名)	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血※	同一供血者製剤確保※	同一供血者製剤使用※	感染症等転帰	転帰	供血者発症及び供血者保管検体(抗原、NAT) (採時点)	供血者発症及び供血者保管検体(抗原、NAT) (採時点)
3-08085	A-08000435	2008/7/17	2008/7/31	人血小板濃厚液(放射線照射)	女	70	血液腫瘍	細菌感染	08/07	-	BT 36.8→40.7℃ 血圧164/92→80/35mmHg 脈拍81→132/min SpO2 80台後半	非溶血性副作用関連検査実施。 抗血球タンパク質抗体検査:陰性 血球タンパク質欠損検査:欠損なし 投与中止の当該製剤(1本)による細菌培養試験を実施、陰性。	-	-	-	-	被疑薬:採血4日目 の照射濃厚血小板(1本)	10単位	-	1本の原料血漿を製造。原料血漿は確保済み。	-	重篤	軽快		
3-08092	A-08000514	2008/8/4	2008/8/18	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	女	50	免疫系疾患	細菌感染	08/08	BT 35.7℃ BP 90/50mmHg 脈拍50/min	BT 38.0~38.8℃ BP 172/101mmHg 脈拍80/min 呼吸数30以上 患者血液培養は未実施	投与後検体について非溶血性副作用関連検査実施。抗血球タンパク質抗体検査:陰性。当該製剤(1本)による細菌培養試験を実施、陰性。	-	-	-	採血17日目の照射赤血球濃厚液-LR(1本)	2単位	-	1本の原料血漿を製造。原料血漿は確保済み。	-	非重篤	回復			
3-08098	A-08000568	2008/8/19	2008/9/1	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	女	10	血液疾患	細菌感染	08/08	-	患者血液培養よりグラム陰性菌 Pseudomonas aeruginosaを検出	投与中止の当該製剤(1本)による細菌培養試験を実施、陰性。	-	-	-	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン ホリエチレンジグリコール処理人免疫グロブリン	採血8日目の照射赤血球濃厚液-LR(1本)	2単位	-	1本の原料血漿を製造。原料血漿は確保済み。	-	重篤	軽快		

日赤番号	識別番号	報告受領日	FAX受付日	報告受領日	一般名	患者性別	年代	原疾患(簡略名)	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	献血者個別検査	献血者再献血	同一献血者製剤使用※	同一献血者製剤確保※	同一献血者製剤使用※	感染症等転帰	転帰	献血者発病及献血者保腎検査体(抗原、抗体、NAT) (採与時点)	献血者発病及献血者保腎検査体(抗原、抗体、NAT) (採与時点)					
3-08099	A-08000594	2008/8/21	2008/9/3	2008/9/3	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	男	30	外傷、整形外科的疾患	細菌感染症	08/08	BT36.6℃	輸血開始15分後、BT37.9℃悪寒院内にて実施の患者血培養によりMRSAを同定した。	非溶血性副作用関連検査実施。抗血球凝集検査、陰性。血球タンパク欠損検査：投与中止の当該製剤(1本)による細菌培養試験を実施、陰性。	-	-	-	-	-	1単位	-	1本の新鮮凍結血小板-LRを製造。新鮮凍結血小板-LRは確保済み。	-	重篤	軽快						
3-08103	A-08000626	2008/8/25	2008/9/8	2008/9/8	人血血小板濃厚液(放射線照射)	男	50	血液腫瘍	細菌感染症	08/08	-	14:17 輸血中止。BP71/39 胸苦あり 15:10 BPI09/33 悪寒・ふるえ 100% 17:30 SpO2 98~ BT40.6℃ BPI24/74 23:00 BP64/- BT37.7℃ BP84/- 院内の患者血液培養にてG群連鎖球菌を同定した。	非溶血性副作用関連検査実施。抗血球凝集検査、陰性。投与中止の当該製剤(1本)による細菌培養試験結果を裏出した結果、G群連鎖球菌を同定した。同一採血番号の血球濃厚液(1本)で無菌試験を実施した結果、適合。保管容器(1本)で細菌培養試験を実施した結果、G群連鎖球菌を同定した。	-	-	患者および当該製剤より同定された2つの菌株について遺伝子型別試験を行い、二者が同一の菌株であることを確認した。	1本の原料血漿を製造。原料血漿は確保済み。	-	10単位	-	被疑薬・投血4日目照射濃厚血血小板(1本)患者血液培養により検出された菌株を医療機関より入手し、細菌培養試験を実施したところ、G群連鎖球菌が同定された。	患者および当該製剤より同定された2つの菌株について遺伝子型別試験を行い、二者が同一の菌株であることを確認した。	上記調査結果を受けて、担当医より「副作用・感染症と輸血血液との因果関係ありと考える」とのコメントが得られた。							

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受付日	一般名	患者性別	年代	原疾患(簡略名)	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血※	同一供血者製剤確保※	同一供血者製剤使用※	感染症等転帰	転帰	供血者発病及供血者保管検体(抗原、抗体、NAT) (採与時点)	供血者発病及供血者保管検体(抗原、抗体、NAT) (採与時点)
3-08104	A-08000627	2008/8/26	2008/9/8	人赤血球濃厚液(成分線照射)-LR	女	30	外科、整形外科疾患出血	細菌感染	SpO2 98% pH 7.519 PaO2 71.4mmHg PaCO2 35.7mmHg FIO2 30% BT 37.3°C BP123/64 HRI28	投与前検査(年月) SpO2 98% pH 7.519 PaO2 71.4mmHg PaCO2 35.7mmHg FIO2 30% BT 37.3°C BP123/64 HRI28	投与後検査(年月) BP174/85 HR124 SpO2 72~80% 輸血中止、悪寒5分以上持続。 SpO2 98% pH 7.490 PaO2 507.6mmHg PaCO2 32.6mmHg FIO2 100% BT 38.4°C 院内にて実施の患者血液培養は陰性 センターからEnterococcus faecalisを同定	日赤投与前検査 非溶血性副作用関連検査実施予定。 投与中止の当該製剤(1本)による細菌培養試験を実施する予定。	日赤投与後検査 調査中	-	-	併用血液製剤等 採血15日目の照射赤血球濃厚液-LR(1本)	2単位	-	調査中	調査中	調査中	非重篤 軽快	転帰 軽快	供血者発病及供血者保管検体(抗原、抗体、NAT) (採与時点)	供血者発病及供血者保管検体(抗原、抗体、NAT) (採与時点)
3-08108	A-08000714	2008/9/3	2008/9/16	人赤血球濃厚液-LR	女	20	神経腫瘍呼吸器疾患	細菌感染	BP130→95 輸血中止 30分後には発熱もなくなりBPも120-130まで回復 患者血液培養調査中	投与前検査(年月) -	投与後検査(年月) BP130→95 輸血中止 30分後には発熱もなくなりBPも120-130まで回復 患者血液培養調査中	日赤投与前検査 非溶血性副作用関連検査実施予定。 被疑製剤2本の内、1本については同一採血番号の無菌試験を実施し、残る1本については当該製剤(1本)による細菌培養試験を実施する予定。	日赤投与後検査 調査中	-	-	併用血液製剤等 被疑薬:採血6,7日目の赤血球濃厚液-LR(2本)	4単位	-	2本の原料血漿を製造。原料血漿は使用の有無を調査中。	調査中	重篤 回復	重篤 回復	供血者発病及供血者保管検体(抗原、抗体、NAT) (採与時点)	供血者発病及供血者保管検体(抗原、抗体、NAT) (採与時点)	
3-08110	A-08000717	2008/9/4	2008/9/17	人赤血球濃厚液(成分線照射)-LR	女	70	血液疾患	細菌感染	BT40.1°C 患者血液培養陰性。	投与前検査(年月) -	投与後検査(年月) BT40.1°C 患者血液培養陰性。	日赤投与前検査 非溶血性副作用関連検査実施予定。 当該製剤のセグメントチューブ(1本)による細菌培養試験を実施する予定。	日赤投与後検査 調査中	-	-	併用血液製剤等 被疑薬:採血14日目の照射赤血球濃厚液-LR(1本)	2単位	-	調査中	調査中	重篤 軽快	重篤 軽快	供血者発病及供血者保管検体(抗原、抗体、NAT) (採与時点)	供血者発病及供血者保管検体(抗原、抗体、NAT) (採与時点)	

日赤番号	識別番号	報告受理日	FAX受付日	報告受理日	一般名	患者性別	年代	原疾患(簡略名)	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血※	同一供血者製剤確保※	同一供血者製剤使用※	感染症等転帰	転帰	供血者発病及の供血者保管検体(抗原、抗体、NAT)	供血者発病及の供血者保管検体(抗原、抗体、NAT)
3-0811300720	A-08000720	2008/9/11	2008/9/22	2008/9/22	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	男	70	消化器腫瘍 肝・胆・膵腫瘍	細菌感染	08/09	輸血前日 BT 36.8℃	輸血開始5時間後 BT 38.0℃ 悪寒 輸血日後 BT 40℃ 血培養採取 患者血培養 養よりBacillus cereusを同定。	同一採血番号の血漿(1本)で無菌試験を実施予定。	-	-	-	-	被疑薬:採血10日目の照射赤血球濃厚液-LR(1本)	2単位	-	1本の新鮮凍結血漿-LRを製造。新鮮凍結血漿-LRは確保済み。	-	重篤	回復		
3-0811600723	A-08000723	2008/9/18	2008/10/1	2008/10/1	人赤血球濃厚液-LR	男	60	血液腫瘍	細菌感染	08/09	-	輸血開始1.5時間後に悪寒、シハリン	非溶血性副作用関連検査実施予定。当該製剤のセクメントチューブ(1本)によるPseudomonas aeruginosaに対する細菌培養試験を実施する予定。	調査中	-	-	被疑薬:採血13日目の赤血球濃厚液-LR(1本)	2単位	-	1本の原料血漿を製造。原料血漿は使用の有無を調査中。	調査中	非重篤	軽快			
3-0811800725	A-08000725	2008/9/22	2008/10/1	2008/10/1	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	男	50	血液腫瘍	細菌感染	08/09	-	輸血開始後40分で悪寒、戦慄あり。輸血中止。その20分後に発熱(38.2℃)血圧低下(-)皮膚疹(-)呼吸の異常なし。院内にて実施の患者及び輸血ルート血液培養よりAcinetobacter lwofiiを同定。	非溶血性副作用関連検査実施。抗質抗体検査:陰性 血漿タンパク質欠損検査:欠損なし 投与中止の当該製剤(1本)による細菌培養試験を実施する予定。	-	-	被疑薬:採血12日目の照射赤血球濃厚液-LR(1本) 2008年9月8日に副作用名「悪寒、戦慄、発熱」として情報入手し、担当医の重篤度判断が非重篤であったため報告対象外としていたが、9月19日に細菌感染も疑われ、関連項目を調査してほしいという追加情報を入手したため、感染症症例として報告する。	2単位	-	1本の新鮮凍結血漿-LRを製造。新鮮凍結血漿-LRは確保済み。	-	非重篤	軽快				

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受理日	一般名	患者性別	年代	原疾患(箇所名)	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	併用血	備考	使用単位数	供血者再献血※	同一供血者製剤確保※	同一供血者製剤使用※	感染症等転帰	転帰	供血者発病及供血者尿管検体(抗原、NAT) (採与時点)	供血者発病及供血者尿管検体(抗原、NAT) (採与時点)		
3-08120		2008/9/22		人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	男	50	呼吸器腫瘍	細菌感染症	BT 37℃前後	BT 37℃前後	輸血終了直後より膨疹と痒みが向上肢に出現。BP 179/101抗ヒスタミン剤投与で改善。BT 37.9℃ 4時間後BT 38.9℃ 悪寒あり。BT38℃前後。患者血液培養施行。4日後 マキーンチーム殺菌により解熱傾向。	非溶血性副作用関連検査実施予定。使用済みバッグによる細菌培養試験を予定。	-	-	-			被疑薬:採血11日目の照射赤血球濃厚液-LR(1本)	2単位	-	調査中	調査中	非重篤	調査中			
3-08121		2008/10/2		人赤血球濃厚液-LR 新鮮凍結血漿-LR 照射濃厚血小板	男	0	先天性疾患 循環器疾患	細菌感染症	08/09 08/09 08/09	BT37℃後半。以後37℃台が縮く。1日後、38℃後半の発熱。2日後、発熱は40℃まで。患者血液培養よりPseudomonas aeruginosaを同定。	同一採血番号の血漿(5本)で無菌試験を実施予定。	-	-	-		被疑薬:採血8、4、15日目の赤血球濃厚液-LR(3本)、採血24日目の新鮮凍結血漿-LR(1本)、採血3日目の照射濃厚血小板(1本)	5単位 2単位 10単位	-	調査中	調査中	重篤	軽快					

試行的 HEV20 プール NAT 実施状況について

(輸血後 HEV 感染の予防対策)

1. 試行的 HEV20 プール NAT 実施状況

北海道赤十字血液センター管内

調査期間:平成 17 年 1 月 1 日～平成 20 年 8 月 31 日

	献血者数	HEV-RNA 陽性	陽性率
H17. 1～H18. 2 ^{*1}	341, 174	45	1/7, 582
H18. 3～H20. 8 ^{*2}	667, 143	80	1/8, 339
合計	1, 008, 317	125	1/8, 067

*1 北海道センターにて NAT 実施(ALT 高値、検査不合格検体も含む)

*2 血漿分画センターにて NAT 実施(ALT 高値、検査不合格検体は除く)

2. HEV-RNA 陽性献血者の内訳

別添

2. HEV-RNA陽性者の内訳

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)	HEV抗体		HEV RNA	問診 該当 ※1	喫食歴調査		経過 対象 供給製剤	受血者情報
					IgM	IgG			肉の種類	食べ方		
1	2005/01/04	32	M	57	-	-	+	無	不明レバー	生	無	
2	2005/02/07	38	F	11	-	-	+	無	ブタレバー	生	無	
3	2005/02/13	41	M	103	-	-	+	無	回答なし		無	
4	2005/03/25	65	F	17	-	-	+	無	回答なし		無	
5	2005/03/27	26	M	38	-	-	+	有	不明レバー(問診時)	生	有	赤血球製剤破損のため院内廃棄
6	2005/04/10	54	F	20	-	-	+	無	ウシ精肉	半生	無	
7	2005/04/15	59	F	16	-	-	+	無	ブタホルモン、シカ精肉	十分加熱	無	
8	2005/04/15	35	F	16	-	-	+	無	シカ精肉、ウシ精肉 ウシレバー、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	
9	2005/04/20	25	M	24	+	+	+	無	ウシレバー、ウシ精肉 ウシホルモン、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	有	感染なし
10	2005/04/28	22	M	44	-	-	+	無	回答なし		無	
11	2005/06/07	42	M	24	+	+	+	無	ウシ精肉 ウシホルモン、ブタ精肉、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	有	原疾患により死亡
12	2005/06/22	51	M	52	-	-	+	無	回答なし		無	
13	2005/07/03	58	M	219	+	+	+	無	不明レバー、ブタ精肉	十分加熱	無	
14	2005/07/05	22	M	23	+	-	+	無	回答なし		無	
15	2005/07/05	38	M	15	-	-	+	無	ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉	半生	無	
16	2005/07/13	24	M	19	-	-	+	無	ウシレバー	生	有	原疾患により死亡
17	2005/09/02	33	M	49	-	-	+	無	ウシ精肉 ヒツジ精肉 ブタホルモン、ブタ精肉	生 半生 十分加熱	無	
18	2005/09/01	29	F	100	+	+	+	無	ウシホルモン、ヒツジ精肉 ウシレバー、ウシ精肉、ブタ精肉	半生 十分加熱	無	
19	2005/09/20	42	M	31	-	-	+	無	ブタホルモン、不明レバー、ヒツジ精肉	十分加熱	有	HEV感染(H17.11.1 運営委員会報告済み)
20	2005/09/27	20	F	10	-	-	+	無	ウシ精肉、ブタホルモン、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
21	2005/10/21	41	M	12	-	-	+	無	回答なし		無	
22	2005/10/25	44	F	38	+	+	+	無	ウシ精肉、ブタ精肉	十分加熱	無	
23	2005/11/07	30	F	21	-	-	+	無	ブタホルモン、ウシ精肉、ヒツジ精肉 ブタホルモン、ウシ精肉、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	
24	2005/11/07	31	F	12	+	+	+	有	ブタレバー、ブタホルモン、ウシ精肉	十分加熱	無	
25	2005/11/20	28	M	47	+	+	+	有	ウシレバー、ウマ精肉 ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉	生 十分加熱	無	
26	2005/11/29	35	F	333	+	+	+	有	回答なし		無	
27	2005/12/13	42	M	30	-	-	+	有	ウシ精肉、ヒツジ精肉 不明レバー、ブタ精肉	半生 十分加熱	有	原疾患により死亡
28	2005/12/13	30	M	11	-	-	+	有	不明レバー	十分加熱	有	HEV感染(H18.01.26 運営委員会報告済み)
29	2005/12/22	62	F	14	-	-	+	無	回答なし		無	
30	2005/12/27	42	F	14	-	-	+	無	回答なし		無	

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)	HEV抗体		HEV RNA	問診 該当 ※1	喫食歴調査		遊及対象 供給製剤	受血者情報
					IgM	IgG			肉の種類	食べ方		
31	2006/01/02	22	F	12	-	-	+	有	ウシレバー、ウシ精肉	十分加熱	無	
32	2006/01/06	68	M	23	-	-	+	無	ウシレバー、ブタホルモン、ヒツジ精肉	半生	無	
33	2006/01/13	36	M	42	-	-	+	無	ウマ精肉、不明レバー ウシ精肉、ヒツジ精肉、 ウシレバー、ブタ精肉、ブタホルモン	生 十分加熱	無	
34	2006/01/18	53	M	238	+	+	+	有	ウシレバー、ウシホルモン	十分加熱	無	
35	2006/01/13	31	M	43	-	-	+	有	不明レバー ブタ精肉、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	
36	2006/01/17	48	M	25	-	-	+	無	回答なし		無	
37	2006/01/25	52	M	25	-	-	+	無	不明レバー、ヒツジ精肉	十分加熱	有	輸血後89日現在、HEVマーカーの陽転は見られず追跡調査終了
38	2006/01/30	39	F	22	-	-	+	無	回答なし		無	
39	2006/01/30	25	M	32	-	-	+	有	ウシ精肉、ウシホルモン、ブタ精肉	十分加熱	無	
40	2006/02/02	39	F	35	-	+	+	有	ウシレバー ウシレバー ヒツジ精肉	生 十分加熱	無	
41	2006/02/07	57	M	13	-	-	+	無	不明	不明	無	
42	2006/02/07	40	F	172	+	+	+	無	ウシ精肉	十分加熱	無	
43	2006/02/17	39	M	28	-	-	+	無	ブタホルモン、ブタレバー、ブタガツ、ヒツジ精肉 イノシシ精肉、ブタ精肉	半生 十分加熱	無	
44	2006/02/20	58	M	22	-	-	+	無	ヒツジ精肉	十分加熱	無	
45	2006/02/21	45	M	30	-	-	+	無	ウシ精肉 ブタ精肉、ブタレバー、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	
46	2006/03/01	46	F	15	-	-	+	無	回答なし		無	
47	2006/03/01	50	F	29	-	-	+	無	回答なし		無	
48	2006/03/02	54	M	47	+	+	+	無	ウシ・ブタ(精肉、レバー、ホルモン)、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
49	2006/03/27	40	F	12	-	-	+	無	回答なし		無	
50	2006/04/01	31	F	16	-	-	+		ヒツジ精肉	半生	無	
51	2006/04/04	30	F	14	-	-	+		ブタ精肉、不明レバー	十分加熱	無	
52	2006/04/12	38	M	45	+	+	+		ブタレバー、ウシ精肉、ブタ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
53	2006/04/18	21	M	26	-	-	+		ウシ精肉、ウシホルモン ウシ精肉、ウシホルモン	半生 十分加熱	無	
54	2006/04/22	28	M	14	+	+	+		回答なし		無	
55	2006/04/26	46	M	19	-	-	+		ブタレバー	半生	無	
56	2006/05/18	62	M	27	-	-	+		ヒツジレバー	十分加熱	無	
57	2006/07/07	17	M	33	-	-	+		回答なし		無	
58	2006/07/11	34	F	10	-	-	+		回答なし		無	
59	2006/07/12	21	F	27	-	-	+		回答なし		無	
60	2006/07/22	49	M	46	+	-	+		ウシ精肉、ブタ精肉、ブタホルモン、ブタレバー	十分加熱	無	

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)	HEV抗体		HEV RNA	問診 該当 ※1	喫食歴調査		遊及対象 供給製剤	受血者情報
					IgM	IgG			肉の種類	食べ方		
61	2006/08/01	62	M	18	-	-	+	/	ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
62	2006/09/06	44	F	14	-	-	+	/	喫食歴なし		無	
63	2006/09/29	68	M	15	-	-	+	/	ブタ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
64	2006/10/21	29	M	22	-	-	+	/	不明		無	
65	2006/11/19	48	M	58	-	-	+	/	ウシ精肉、ブタ精肉	十分加熱	無	
66	2006/11/23	54	M	18	-	-	+	/	回答なし		無	
67	2006/12/01	43	M	55	-	+	+	/	ブタ精肉	十分加熱	無	
68	2006/12/04	60	M	46	+	+	+	/	ウシ精肉	十分加熱	無	
69	2006/12/04	47	M	40	+	+	+	/	ウシ精肉、ウシホルモン	十分加熱	無	
70	2007/03/01	33	M	41	-	-	+	/	ウシレバー	生	無	
71	2007/03/15	42	M	32	-	+	+	/	ブタレバー、ブタホルモン	半生	無	
72	2007/03/27	55	M	30	-	-	+	/	不明レバー	十分加熱	無	
73	2007/04/07	22	F	9	-	-	+	/	ユッケ ウシホルモン、ヒツジホルモン	生 十分加熱	無	
74	2007/05/16	47	F	15	-	-	+	/	ヒツジ精肉、ブタホルモン	十分加熱	無	
75	2007/05/18	40	F	27	+	+	+	/	ブタ生ハム(自家製)	半生	無	
76	2007/05/30	33	M	26	-	+	+	/	ヒツジ精肉、ブタホルモン	十分加熱	無	
77	2007/06/22	38	M	20	-	-	+	/	ウシ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
78	2007/06/25	45	M	37	+	+	+	/	ブタ精肉 ヒツジ精肉	十分加熱 半生	無	
79	2007/06/27	37	M	18	-	-	+	/	ブタ精肉	十分加熱	無	
80	2007/07/24	57	M	24	-	-	+	/	喫食歴なし		無	
81	2007/07/29	37	M	48	-	-	+	/	不明レバー、ブタホルモン 不明レバー、ブタホルモン	十分加熱 半生	無	
82	2007/07/31	48	M	30	-	-	+	/	ブタ精肉、ブタホルモン、ブタレバー	十分加熱	無	
83	2007/08/01	48	M	33	-	-	+	/	ブタ精肉 ウシ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱 半生	無	
84	2007/08/04	53	M	28	-	-	+	/	ヒツジ精肉 ヒツジ精肉	十分加熱 半生	無	
85	2007/08/26	50	M	60	-	-	+	/	ヒツジ精肉 ウシ精肉	十分加熱 生	無	
86	2007/09/05	41	M	29	-	-	+	/	喫食歴なし		無	
87	2007/09/18	41	M	23	-	-	+	/	ウシ精肉、ブタ精肉、ウシホルモン、ブタホルモン	半生	無	
88	2007/09/21	57	M	19	-	-	+	/	ブタホルモン	十分加熱	無	
89	2007/10/03	59	M	39	-	-	+	/	ブタレバー、ブタ精肉	十分加熱	無	
90	2007/10/03	19	M	40	-	-	+	/	喫食歴なし		無	

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)	HEV抗体		HEV RNA	問診 該当 ※1	喫食歴調査		遊及対象 供給製剤	受血者情報
					IgM	IgG			肉の種類	食べ方		
91	2007/10/09	35	M	19	-	-	+	/	ブタ精肉	十分加熱	無	
92	2007/10/18	30	M	31	-	-	+	/	ウシ精肉、ブタ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
93	2007/11/16	24	M	5	-	-	+	/	不明		無	
94	2007/11/16	54	M	22	-	+	+	/	ブタホルモン、ブタレバー	十分加熱	無	
95	2007/11/16	45	M	47	-	-	+	/	ブタ精肉 ブタレバー	十分加熱 半生	無	
96	2007/11/19	58	M	13	-	-	+	/	レバー、ホルモン	不明	無	
97	2007/11/19	24	M	46	-	-	+	/	不明		無	
98	2007/11/24	36	M	25	-	-	+	/	不明		無	
99	2007/11/29	42	M	21	-	+	+	/	不明		無	
100	2007/11/30	31	M	42	+	+	+	/	レバー	不明	無	
101	2008/01/08	35	M	36	-	-	+	/	ウシ精肉、ブタ精肉	十分加熱	無	
102	2008/01/17	48	F	13	+	+	+	/	ブタホルモン、シカ精肉 ウシ精肉	十分加熱 半生	無	
103	2008/01/29	57	M	22	-	-	+	/	ブタレバー、ブタホルモン	十分加熱	無	
104	2008/02/04	31	M	47	+	+	+	/	不明		無	
105	2008/02/06	57	M	20	-	-	+	/	ブタホルモン	十分加熱	無	
106	2008/02/13	42	M	35	-	-	+	/	不明レバー	十分加熱	無	
107	2008/02/13	60	M	37	+	+	+	/	不明		無	
108	2008/03/11	30	M	21	-	-	+	/	不明		無	
109	2008/03/25	34	F	26	-	-	+	/	喫食歴なし		無	
110	2008/03/26	32	M	41	+	+	+	/	ブタ精肉、ウシ精肉	十分加熱	無	
111	2008/03/29	54	M	26	-	-	+	/	ブタ精肉	十分加熱	無	
112	2008/03/30	19	F	9	-	-	+	/	不明レバー	十分加熱	無	
113	2008/04/16	48	M	13	-	-	+	/	不明		無	
114	2008/05/12	33	M	12	-	-	+	/	ブタ精肉、ブタホルモン	半生	無	
115	2008/05/28	39	F	29	-	-	+	/	不明		無	
116	2008/05/28	47	M	46	-	-	+	/	ブタホルモン	十分加熱	無	
117	2008/06/04	43	M	38	+	+	+	/	ウシレバー ウシホルモン、ウシ、ブタ、ヒツジ精肉	生 十分加熱	無	
118	2008/06/07	42	M	11	-	-	+	/	ウシレバー ブタ精肉	生 十分加熱	無	
119	2008/06/23	48	M	17	-	-	+	/	ウシ、ブタ、ヒツジ精肉	半生	無	
120	2008/07/10	39	M	32	-	-	+	/	ウシ、ブタ、ヒツジ精肉 ウシ、ブタ、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)	HEV抗体		HEV RNA	問診 該当 ※1	喫食歴調査		波及対象 供給製剤	受血者情報
					IgM	IgG			肉の種類	食べ方		
121	2008/07/11	39	M	28	-	-	+	/	不明		無	
122	2008/07/26	34	M	35	-	-	+	/	ウシ精肉、ブタ精肉	十分加熱	無	
123	2008/07/27	36	M	45	-	-	+	/	不明		無	
124	2008/07/30	24	M	10	-	-	+	/	不明		無	
125	2008/08/20	19	M	17	+	-	+	/	不明		無	

※1: 問診喫食歴調査内容

05年1月1日～05年10月31日: 「過去3ヶ月以内にブタ、シカ、イノシシあるいは動物種不明の生肉、生レバーの喫食歴」

05年11月1日～06年03月31日: 「過去3ヶ月以内に生肉(半生も含む)、レバー、ホルモン(動物種、焼き方を問わず)の喫食歴」、なお本調査は06年03月31日をもって終了

事 務 連 絡
平成20年10月6日

日本赤十字社血液事業本部 御中

薬事・食品衛生審議会血液事業部会事務局
厚生労働省医薬食品局血液対策課

血液製剤に関する報告事項について

血液事業の推進に御努力いただき、厚く御礼申し上げます。

さて、標記につきましては、平成20年6月27日付け血安第242号にて貴社から報告を頂いたところですが、平成20年10月29日（水）に平成20年度第3回血液事業部会運営委員会が開催されますので、下記の事項について資料を作成いただき、平成20年10月9日（木）までに当事務局あて御提出いただきますようお願いいたします。記の14については、平成20年7月15日開催平成20年度第2回血液事業部会運営委員会提出資料を更新のうえ、再度御提出ください。

なお、資料の作成に当たっては、供血者、患者及び医療機関の名称並びにこれらの所在地又はこれらの事項が特定できる情報を記載しないよう、個人情報及び法人情報の保護に特段の御配慮をお願いします。

記

1. 平成15年9月5日付けで報告された輸血用血液製剤でH I Vの感染が疑われる事例について、残る2人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
2. 平成16年3月22日付けで報告された輸血用血液製剤でH B V（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る5人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
3. 平成16年11月26日付けで報告された輸血用血液製剤でH B V（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る8人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
4. 平成17年1月12日付けで報告された輸血用血液製剤でH B V（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る4人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。

査結果。来訪がなければ、その旨。

5. 平成17年2月4日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る1人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
6. 平成17年6月23日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る5人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
7. 平成18年4月7日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る9人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
8. 平成18年6月5日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る2人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
9. 平成19年2月20日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る1人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
10. 平成20年1月23日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る10人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
11. 平成20年2月8日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る2人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
12. 平成20年5月14日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る2人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
13. 平成18年2月15日報告、3月8日付けで追加報告された輸血用血液製剤でHCV（C型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る3人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
14. 試行的HEV20プールNATについて、その後の調査実施状況。

血安第409号
平成20年10月9日

厚生労働省医薬食品局血液対策課長 様

日本赤十字社
血液事業本部長

血液製剤に関する報告事項について（回答）

平成20年10月6日付事務連絡によりご依頼のありました標記の件については、下記により回答いたします。

記

1. 平成15年9月5日付けで報告された輸血用血液製剤でHIVの感染が疑われる事例について、残る2人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
⇒ 残る2人のその後の来訪なし。（8名中6名が来所、検査は全て陰性）
2. 平成16年3月22日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る5人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
⇒ 残る5人のその後の来訪なし。（37名中32名が来所、検査は全て陰性）
3. 平成16年11月26日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る8人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
⇒ 残る8人のその後の来訪なし。（48名中40名が来所、検査は全て陰性）
4. 平成17年1月12日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る4人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
⇒ 残る4人のその後の来訪なし。（16名中12名が来所、検査は全て陰性）
5. 平成17年2月4日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る1人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
⇒ 残る1人のその後の来訪なし。（追跡調査対象の4名中3名が来所、HBV-DNAは全て陰性。1名はHBc抗体がEIA法のみ陽性HI法陰性、その他の者は全て陰性）

6. 平成17年6月23日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る5人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
⇒ 残る5人のその後の来訪なし。（20名中15名が来所、検査は全て陰性）
7. 平成18年4月7日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る9人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
⇒ 残る9人のその後の来訪なし。（53名中44名が来所、HBV-DNAは全て陰性。
2名はHBc抗体及びHBs抗体陽性、1名はHBs抗体のみ陽性、その他の者は全て陰性）
8. 平成18年6月5日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る2人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
⇒ 残る2人のその後の来訪なし。（29名中27名が来所、HBV-DNAは全て陰性。
2名はHBc抗体及びHBs抗体陽性、1名はHBs抗体のみ陽性、その他の者は全て陰性）
9. 平成19年2月20日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る1人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
⇒ 残る1人のその後の来訪なし。（3名中2名が来所、検査は全て陰性）
10. 平成20年1月23日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る10人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
⇒ 残る10人がその後再採血に協力いただき、検査は陰性。（24名中24名全員が来所、HBV-DNAは全て陰性。1名はHBc抗体及びHBs抗体陽性、2名はHBs抗体のみ陽性、その他の者は全て陰性）
11. 平成20年2月8日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る2人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
⇒ 1人がその後再採血に協力いただき、検査は陰性。（56名中55名が来所、HBV-DNAは全て陰性。1名*はEIA法でHBs抗原及びHBc抗体陽性、1名はHBc抗体及びHBs抗体陽性、1名はHBs抗体のみ陽性、その他の者は全て陰性）
*再採血時にEIA法でHBs抗原及びHBc抗体陽性であった1人については、当該献血時においてもEIA法でHBs抗原及びHBc抗体陽性であった。

12. 平成20年5月14日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る2人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。

⇒ 残る2人のその後の来訪なし。（2名中来所者なし）

13. 平成18年2月15日報告、3月8日付けで追加報告された輸血用血液製剤でHCV（C型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る3人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。

⇒ 残る3人のその後の来訪なし。（81名中78名が来所、検査は全て陰性）

14. 試行的HEV20プールNATについて、その後の調査実施状況。

⇒ 別紙のとおり

試行的 HEV20 プール NAT 実施状況について
(輸血後 HEV 感染の予防対策)

1. 試行的 HEV20 プール NAT 実施状況

北海道赤十字血液センター管内
調査期間:平成 17 年 1 月 1 日～平成 20 年 8 月 31 日

	献血者数	HEV-RNA 陽性	陽性率
H17. 1～H18. 2 ^{*1}	341, 174	45	1/7, 582
H18. 3～H20. 8 ^{*2}	667, 143	80	1/8, 339
合計	1, 008, 317	125	1/8, 067

*1 北海道センターにて NAT 実施(ALT 高値、検査不合格検体も含む)

*2 血漿分画センターにて NAT 実施(ALT 高値、検査不合格検体は除く)

2. HEV-RNA 陽性献血者の内訳

別添